

1. 略歴

- 1994年3月 お茶の水女子大学文教育学部国文学科卒業
1994年4月 東京大学大学院人文科学研究科国語国文学専攻修士課程入学
 (1995年4月に人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野と改称)
1997年3月 同 修了
1997年4月 東京大学大学院人文社会系研究科日本文化研究専攻日本語日本文学専門分野博士課程進学
2000年3月 同 修了
2000年3月 博士(文学)学位取得(東京大学)
2000年4月 椋山女学園大学人間関係学部専任講師
2003年4月 椋山女学園大学人間関係学部助教授
2007年4月 日本大学文理学部准教授
2013年4月 日本大学文理学部教授
2018年4月 東京大学大学院人文社会系研究科准教授
2023年4月 東京大学大学院人文社会系研究科教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

日本近世文学

b 研究課題

近世後期から明治前期の戯作と芸能を主な研究対象としている。作品読解を通じて表現の基底にある価値観や知識を明らかにすること、近世の娯楽文化をめぐる諸事象と現代文化との連続性を考察することを目標としている。

c 概要と自己評価

戯作の文体と表現様式の分析から出発し、長編合巻の翻刻と書誌学的研究、戯作者山東京伝に関する研究などを積み重ねてきた。近年は幕末・明治に活躍した落語家三遊亭円朝の作品研究や、戯作に対する出版統制の実態解明にも力を注いでいる。これまで、近世後期の合巻に関する研究成果をまとめた『江戸の絵入小説―合巻の世界―』(ぺりかん社、2001)、山東京伝の評伝をまとめた『山東京伝―滑稽洒落第一の作者―』(ミネルヴァ書房、2009)、古典を中心とする日本文学に描かれた妖術使いについて考察した『妖術使いの物語』(国書刊行会、2009)、戯作に対する出版統制について考察した『江戸の出版統制―弾圧に翻弄された戯作者たち―』(吉川弘文館、2017)などを発表している。

2022・2023年度は、戯作および落語に関する論文を発表し、幕末の合巻に関する研究成果をまとめた『幕末の合巻―江戸文学の終焉と転生』を刊行した。また、Laura Moretti氏との共編で草双紙に関する論文集『Graphic Narratives from Early Modern Japan: The World of Kusazōshi』を刊行した。

d 研究業績

(1) 書籍出版物

[単著]『幕末の合巻―江戸文学の終焉と転生』、岩波書店、単行本(学術書)、2024.2

[共編者]『Graphic Narratives from Early Modern Japan: The World of Kusazōshi』、Brill、単行本(学術書)、2024.2 (Laura Moretti氏との共編)

(2) 論文

[学術雑誌]「石川淳と山東京伝―洒落本へのまなざし」、『アナホリッシュ国文学』11号、白順社、pp.73-82、2022.11

[学術雑誌]「草双紙と「戯作」」、『日本文学』72巻7号、日本文学協会、pp.35-43、2023.7

[論文集(書籍)内論文]「「文七元結」と江戸・東京」、田中優子編『落語がつくる〈江戸東京〉』、岩波書店、pp.61-80、2023.9

(3) その他各種論著

[書評・文献紹介等]「概観 日本文学〈古典〉」、日本文藝家協会編『文藝年鑑2022』、新潮社、pp.43-45、2022.6

[書評・文献紹介等]「概観 日本文学〈古典〉」、日本文藝家協会編『文藝年鑑2023』、新潮社、pp.45-47、2023.6

(4) 講演・口頭発表等

[公開講演]「江戸文学のなかの鬼」、すみだ地域学スペシャル講義、すみだ生涯学習センター、2022.6.25

[セミナー]「合巻の出版と規制」、Summer School in Early Modern Japanese Palaeography、ケンブリッジ大学、2022.8.16
(オンライン)

[ワークショップ]「The Art of Overlaying. Mitate in Early Modern Books. 江戸の見立て絵本」、ケンブリッジ大学、2023.5.8
～10

e その他

(1) 学会・委員活動

[委員歴] 国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター 拠点連携委員会委員、2019.6～2024.3、センター運営委員会委員、2021.4～2024.3

[委員歴] 日本近世文学会 常任委員、2022.6～現在に至る